

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

学校名	伊万里市立東陵中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の基本は、マイプランを活用した全職員による共通理解と共通実践であることを再確認するとともに、主体的に学ぶ授業づくりの実現に向けて授業改善を推進し、本校の第1の課題である学力向上を図る。 ・心の教育に関しては、いじめ問題への対応や人権・同和教育の推進はよくできているものの、道徳の年間指導計画をもとにした授業実践が十分ではなかった。年間計画を見直し修正するとともに、道徳授業に関わる研修会を計画するなどして授業力の向上を図る。 ・食育においては、講話を行うことで食に対する意識は高まった。一方、朝食の喫食率が低い傾向にあるので、家庭との連携を取りながら改善を図る。 ・月平均超過勤務の時間が依然として長い傾向にある。教職員の意識改革も含め広く業務の改善に努め、働き方改革を推進することでワークライフバランスの実現を図る。 ・キャリア教育の推進においては、コロナ禍で工夫・実践してきたことを踏まえながら、コロナ禍以前の取り組みの再検討を行い、保護者や地域と連携して生徒の目標(夢)につなげ志を高めるような実践を行う。 ・特別支援教育の推進及び開かれた学校づくりにおいては、継続して担当職員を中心に充実した取り組みを図る。
------------------	--

2 学校教育目標	志をもち、心豊かで、たくましく生きる生徒の育成 ～ 主体性(気づき・考え・行動する)を高めることを通して ～
----------	--

3 本年度の重点目標	1 分かる授業の構築と確かな学力の向上 2 豊かな心と健やかな体づくり 3 家庭・地域とつながり、地域を元気にする学校づくり
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○「学び合い」を取り入れた授業実践	○「授業に主体的に取り組み、授業内容がよくわかる」と肯定的な回答をする生徒の割合が80%以上	・校内研究において、「東陵中の学び合い」を構築し、各教科・領域において工夫して授業実践を行うことで、生徒一人ひとりが意見をもって授業に参加できるように取り組む。
	○Edtecの積極的な活用による教育の情報化の推進	○「授業をはじめ学習の場でPCやタブレットが積極的に活用されている」と肯定的な回答をする生徒の割合が80%以上	・Edtecを積極的に活用するためのスキル向上のために職員研修を開催する。 ・各教科・領域において積極的にタブレットPCを活用する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「『明日への扉』の活用を基本とし、年間指導計画をもとに、生徒の実情に合わせて適宜見直ししながら授業を実践できた」と肯定的な回答をする教員の割合が90%以上 ○ローテーション授業の実施100%	・教科書「明日への扉」を活用し、計画的に道徳の授業を実践する。 ・朝の会で、「いまりっ子しぐさ」の音読。 ・ローテーション授業計画を提示し計画をもとに実施する。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員の割合が90%以上	・日常の「気になる生徒」の情報交換や毎月の「月のころ」の実施により早期発見に努める。 ・月1回、教育相談部会を開催し必要があれば関係機関と連携しながら早期対応に努める。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・生徒の活躍の場を多く設定し、自己肯定感や自己有用観の育成を図る。 ・特活・総合において、進路・キャリア教育を計画的に実践し、生き方や職業観・勤労観を醸成する。
	○人権・同和教育の充実及び人権意識の高揚	○学級や学校での取組や人権・同和教育の授業を通して、人権意識が高まったと回答する生徒の割合が80%以上	・部落史、部落差別を解消するための学習の充実。 ・年間10回程度の相互理解、仲間づくりのためのRタイムの実施。 ・人権講話や平和集会、人権週間の実施。
●健康・体づくり	◎「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	◎「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	・給食時間を活用した、栄養教諭・養護教諭による食に関する指導の実施。 ・年2回「朝食に関するアンケート」の実施。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務記録表による毎月の業務状況の的確な把握と定時退勤推進日の徹底。 ・部活動運営方針の遵守と休養日の確保。 ・「働き方改革チェックシート」を活用した実態把握と業務改善の推進。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○特別支援教育の推進	○個に応じた適切な支援の推進	○個別の支援計画に沿った指導を行うことができたという教員の割合が80%以上 ○不登校生徒の出席日数を昨年度よりも増やす。	・「個別の教育支援計画」の作成方法や留意点などについて、職員研修を実施する。 ・専門家による研修や支援を行い、職員のスキルアップを図る。 ・定期的に家庭訪問や面談を行い、家庭や関係機関と連携して生徒の支援を行う。
○開かれた学校づくり	○学校運営協議会を核とした地域の連携・協働 ○学校情報の積極的配信	○「学校運営協議会が役割を果たしている」とする委員の数が90%以上 ○「開かれた学校づくりに取り組んでいる」と回答する保護者の割合が80%以上	・学校運営協議会を通して、地域と連携した活動を積極的に実施する。 ・学校ホームページや連絡アプリを活用して家庭や地域に積極的に情報発信を行う(道徳の授業を含む)。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育